

令和8年度 第1回浜松市幼児教育推進協議会 議事要旨

1 開催日時・開催場所		令和8年6月19日(金)午後3時00分から午後4時30分 ザザシティ浜松中央館5階大会議室				
委員・有識者		氏 名(敬称略)	所属等	氏 名(敬称略)	所属等	
	1	島田 桂吾	学識経験者 静岡大学大学院教育学研究科准教授	8	藤井 里枝子	市立保育所・認定こども園 権現谷保育園園長
	2	伊藤 いかよ	私立認定こども園 和光こども園園長	9	縣 倫子	市立小学校 平山小学校校長
	3	平松 伊早子	私立幼稚園 志都呂幼稚園園長	10	山崎 拓也	幼稚園・保育所・認定こども園保護者代表
	4	竹内 映晴	私立保育所 まつのき保育園園長	11	吉岡 美紀	幼稚園・保育所・認定こども園保護者代表
	5	大石 裕之	地域型保育事業所 つばめ保育園園長	12	野田 志保	こども家庭部長(委員長)
	6	中川 亜子	認証保育所 和敬愛育園園長	13	吉積 慶太	学校教育部長(副委員長)
	7	米倉 理恵	市立幼稚園 芳川幼稚園園長	14	水野 希樹	教育センター所長
3 主な意見・質問等						
1 幼児教育・保育の質の向上について						
・ 幼保運営課主催の研修は、例年同様の時期・回数で実施している。新たな講師も招聘し、研修内容の更新・充実を図っている。 ・ オンライン研修では見逃し配信の利用率が高い。質の向上のためには、研修内容を個人だけでなく組織全体で共有することが重要である。 ・ 幼児教育アドバイザー派遣事業について、前年度は8回の実績があった。事後アンケートでは、「日々の保育実践をアドバイザーから評価されたことで、職員の自信に繋がっている」という声が寄せられた。						
2 幼保小の接続について						
・ 小学校教員を園に招いての模擬授業や体験授業等、小学校行事への参加などを通じて交流を行っている。一方で、新型コロナウイルス感染症の流行以降、小学校との交流が減少傾向にあったり、園と学校との距離が離れていて交流に踏み切れなかったりするなど、課題を抱えている地域もある。 ・ 発達支援や外国人支援など、視点に焦点を当てた接続の工夫も検討の余地があるのではないかな。 ・ 小学校側における幼保小接続への意識は、近年向上しつつある。スタートカリキュラムについては各校手探りながらも取り組まれているが、多数の園からこどもが入学する小学校もあり、地域による難しさも存在する。こどもたちの生活体験や家庭環境は多様であり、スタートラインはそれぞれであるため、カリキュラムの工夫により安心感を土台とした段階的な適応を支援していく。 ・ 幼児教育で大切にされている「遊び」が小学校での学びにどうつながるのかは、保護者から見えにくい面がある。可視化して発信することで保護者の理解を深め、家庭での話題作りやこどもの安心感へつなげることが望ましい。 ・ 9月に「幼児教育と小学校教育の接続に関する研修会」を2日間各地域ごとに集合して実施する。小学校教員は、教務主任や主幹教諭など接続・連携を推進する立場の人が必ず一人参加する。また、幼児教育及び生活科に精通した講師を招くことで、学びをつなぐことの理解を深めるとともに、各地域でできる接続の強化を目指す。						
【まとめ 島田先生より】						
・ 近年、幼保小接続への関心が高まっており、今後の関係法令や学習指導要領の改訂を踏まえると、さらなる環境の変化が予想される。「変えないために変える」という捉え方のもと、こどもたちの良さや可能性、幼児期の学びをスムーズにつなぐという本質を守るため、教職員・保護者・地域が連携し、これまでの実践の価値を再確認・評価していくことが大切である。 ・ 幼児教育における日常の遊びは、外部の視点から新鮮に映ることがある。第三者による指導観や遊びの意義づけを取り入れ、日常の実践を見直し、改善していく循環が求められる。						
4 今後について	(1) 開催日時及び場所について 令和8年10月7日(水)午前 浜松市立権現谷保育園					
	(2) 内容 ・ 保育参観 ・ 幼保小の接続に関する協議					